

# 審判上の確認事項

大会審判委員長

1. 本大会は、2022年度(公財)日本バレーボール協会「9人制バレーボール競技規則」及び「競技要項」に準じて実施する。
2. プロトコールが開始されたら、競技場に入ることができるのは、構成メンバー表(コンポジションシート)に記載されたチーム役員と選手のみである。
3. トスに勝ったチームキャプテンは、サービスを打つか、サービスをレシーブする権利、またはどちらのコートに入るかを選択する。
4. 監督は、チームベンチの最も記録席に近い席に座るか、選手交代ゾーンに引いたラインから自チームのウォームアップエリアまでのフリーゾーンであれば、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。ただし、試合を妨害したり、線審の判定を妨げになるような場所に立ち止まることや、判定に影響を及ぼすような行為は禁止される。
5. タイムアウトの要求は、監督がハンドシグナルを示して要求すること。監督がいないときは、ゲームキャプテンがハンドシグナルを示して要求すること。
6. 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示す必要はない。  
交代する選手は、選手交代ゾーン内のサイドライン上で片方の手を上げ、交代の要求が認められたときは、副審の合図で交代する。  
ただし、コート内の選手の負傷や病気による選手交代の場合は、監督(監督がいないときはゲームキャプテン)がハンドシグナルを示して要求する。
7. 複数の選手を交代させたいときは、複数の選手が同時(時間を空けず)に選手交代ゾーンに入ること。  
選手交代ゾーンに入るタイミングが明らかに遅れた場合は、遅れた方の選手交代の要求は拒否される。
8. プレーがノーカウントとなった直後は、両チームとも中断(タイムアウト・選手交代)の要求はできない
9. ボールの全体または一部が、許容空間外側ネット垂直面を超えて、相手側のフリーゾーンに行った場合は、チームに許された接触回数のなかで、再びコートと同じ側の許容空間外からネット垂直面を超えてボールを取り戻すことができる。その際、選手は相手側のフリーゾーン内にあるボールをプレーすることができる。ただし、取り戻しのプレー中、相手選手のプレーの妨げとなった場合は、インターフェアの反則となる。
10. 軽度の不法な行為があった場合は、再発を防止するため、そのチームはゲームキャプテンを通じて口頭で警告される。チーム内の2回目の軽度の不法な行為については、その競技参加者に対し、イエローカードが示され警告の制裁を受ける。
11. 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて、ラリー終了後速やかに拭くこと。チームは十分な枚数のワイピング用タオルを準備すること。モップの使用は、タイムアウト中、セット間、及び審判が指示したときとする。